整理番号	H-V063-J-5

自力式弁

減圧タイプ　V182, V82
リリーフタイプ　V185
背圧タイプ　V186

取扱説明書

目　次　　（ページ）

1.弊社製品の保証内容について …… 1
2.取扱い使用上の注意 …… 2
3.運搬・開梱・保管の注意 …… 2
4.各部品の名称 …… 3
5.製品の機能及び仕様 …… 5
6.使用圧力と温度の関係 …… 6
7.作動特性 …… 7
8.取付方法 …… 9
9.作動圧力の調整方法 …… 13
10.分解・組立方法 …… 14
11.点検項目 …… 15
12.不具合の原因と処置方法 …… 16
13.残材・廃材の処理方法 …… 17

旭有機材

本取扱説明書は、弊社製品を安全にご使用頂くための重要な事柄について記載しています。
尚、お読みになられた後は、お使いになる方がいつでも見ることができる所に必ず保管ください。

【表示マーク】

＜警告・注意表示＞

警告	取扱いを誤った場合、「死亡または重傷を負うことが想定される内容」です。
注意	取扱いを誤った場合、「傷害を負うことが想定されるか、または、物的損害の発生が想定される内容」です。

＜禁止・強制表示＞

	製品の取扱いにおいて、「行ってはいけない内容」で禁止します。
	製品の取扱いにおいて、「必ず行って頂く内容」で強制します。

1．弊社製品の保証内容について

・弊社製品のご使用に際しては、製品仕様や注意事項等の遵守をお願い致します。
・弊社は製品の品質・信頼性の向上に努めておりますが、その完全性を保証するものではありません。特に人の生命、身体または財産を侵害する恐れのある設備等へご使用される場合には、通常発生し得る不具合を十分に考慮した適切な安全設計等の対策を施してください。このようなご使用については、事前に仕様書等の書面による弊社の同意を得ていない場合は、弊社はその責を負いかねますのでご了承願います。
・弊社製品の選定、施工・据付、操作、メンテナンス等の注意事項は技術資料、取扱説明書等に記載してありますので、最寄りの販売店・弊社営業所へお問い合わせください。
・弊社製品の保証期間は納入後１年間とし、保証期間中に不具合が生じ、弊社に通知された場合は直ちに原因究明を行い、弊社製品に欠陥が発見された場合には弊社の責任でその製品を修理・交換致します。
・保証期間経過後の修理・交換は有償となります。
・ただし、次に該当する場合は保証の対象外と致します。
　(1)ご使用条件が弊社の定義する保証範囲を超えている場合。
　(2)施工・据付、取扱い、メンテナンス等において、弊社の定義する注意事項等※が守られていない場合。
　(3)不具合の原因が弊社製品以外の場合。
　(4)弊社以外による製品の改造・二次加工による場合。
　(5)部品をその製品の本来の使い方以外にご使用された場合。
　(6)天災・災害等の弊社製品以外の原因による場合。
　※　尚、弊社製品の不具合により誘発される損害については、保証の対象外と致します。
・この保証は弊社製品を日本国内で使用される場合に限り適用されます。海外でご使用される場合には、別途、弊社にお問い合わせください。

2. 取扱い使用上の注意

警告

・当社樹脂製配管材料に陽圧の気体をご使用される場合は、水圧と同値であっても圧縮性流体特有の反発力により危険な状態が想定されますので、管を保護資材で被覆する等周辺への安全対策を必ず施してご使用願います。尚、ご不明な点はお手数ですが弊社窓口へお問い合せください。配管施工完了後、管路の漏れ試験を行う場合、水圧にて確認してください。止むを得ず気体にて試験を行う場合、最寄りの営業所へ事前にご相談ください。

注意

・バルブに乗ったり重量物を載せたりしないでください。(破損する恐れがあります)
・火気・高温な物体に接近させないでください。(変形・破損・火災の恐れがあります)
・使用温度及び使用圧力は許容範囲内でご使用ください。(最高許容圧力は水撃圧を含んだ圧力です。許容範囲外で使用されますとバルバが破損する恐れがあります)
・スラリーを含んだ流体では自力式弁は不適です。(バルブが正常に作動しなくなります)
・保守点検が出来るスペースは十分確保してください。
・適切な材質を選定してご使用ください。(薬液の種類によって部品が侵され破損する恐れがあります。詳細については最寄の営業所へ事前にご相談ください。)
・結晶性物質を含んだ流体では再結晶しない条件でご使用ください。
(バルブが正常に作動しなくなります)
・常時、水・粉じんなどが飛び散る場所及び直射日光のあたる場所は避けるか、又は全体を覆うカバー等を設けてください。(バルブが正常に作動しなくなります)
・定期的なメンテナンスを行なってください。(長期保管・休転時または使用中の温度変化や経時変化により漏れが発生する場合があります)

3. 運搬・開梱・保管の注意

警告

・バルブの吊り下げ・玉掛けは、安全に十分注意して吊り荷の下に立たないでください。

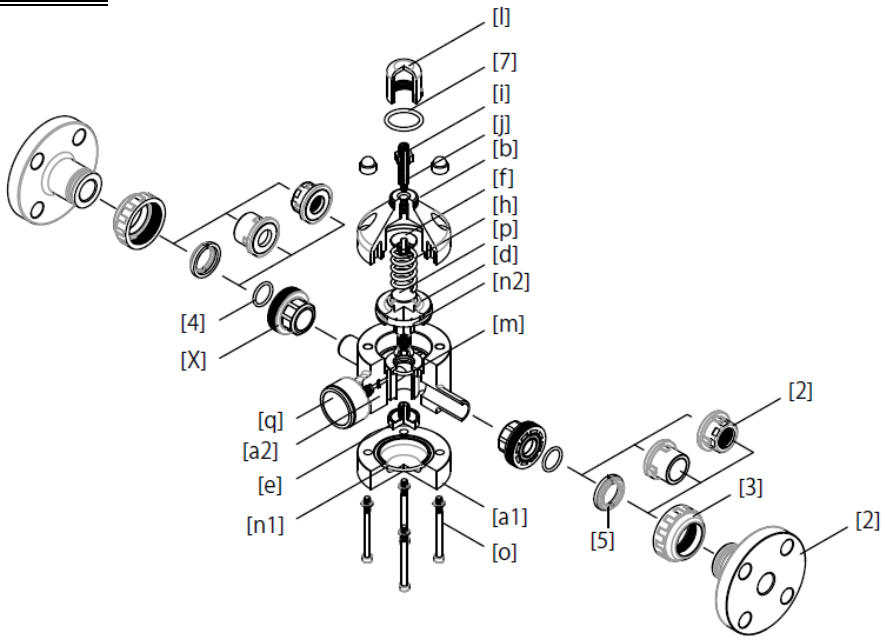
注意

・投げ出し・落下・打撃等による衝撃を与えないでください。(損傷や破損の恐れがあります)
・鋭利な物体(ナイフ・手掛など)で引っかき・突き刺しなどをしないでください。
・ダンボール梱包は、荷崩れしないように無理な積み重ねをしないでください。
・コールタール・クレオソート(木材用防腐剤)・白あり駆除剤・殺虫剤・塗料などに接触させないでください。(膨潤により破損する恐れがあります)
・バルブを運搬する場合、ハンドル掛けはしないでください。
・配管直前までダンボールに入れたまま、直射日光を避け、屋内(室温)で保管してください。又、高温になる場所での保管も避けてください。(ダンボール梱包は水などに濡れると強度が低下します。保管・取扱には十分ご注意ください)
・開梱後、製品に異常がないか、また仕様と合致しているかご確認ください。

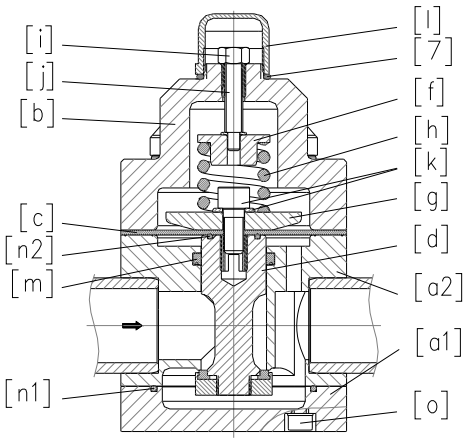
4. 各部品の名称

○減圧タイプ

V182 (15mm～40mm)



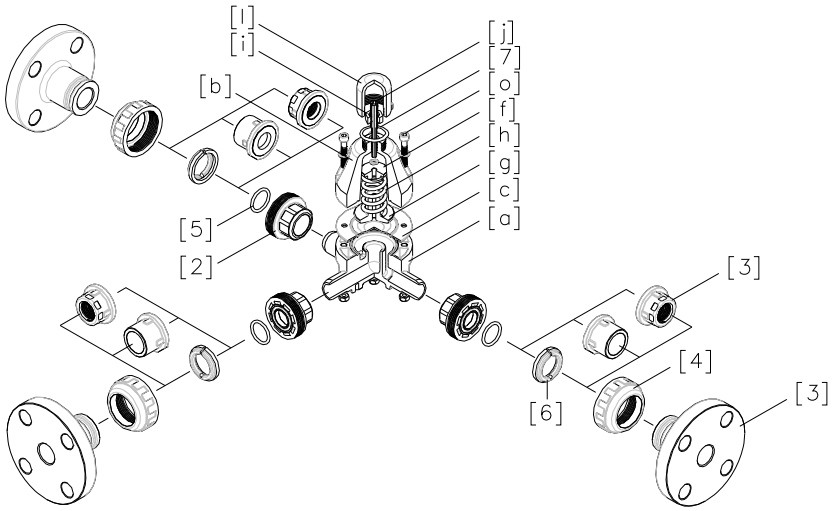
V82 (50mm)



No.		名　　称	No.		名　　称	No.	名　　称
[1]	[a1]	ボディ(下)	[1]	[j]	調整ネジ	[3]	ボディキャップ
	[a2]	ボディ(上)		[k]	ボルト、ワッシャ※1	[4]	キャップナット
	[b]	ハウジング		[l]	キャップ	[5]	O リング(C)
	[c]	ダイヤフラム※1		[m]	リングシール	[6]	ストップリング※4
	[d]	ピストン		[n1]	O リング(A)	[7]	O リング(D)
	[e]	ピストンベース※2		[n2]	O リング(B)	(注記)※1. V82 に使用	
	[f]	スプリングプレート		[o]	ボルト	※2. V182 に使用	
	[g]	コンプレッサー※1		[p]	スプリングサポートプレート※2	※3. 自力式自在型専用	
	[h]	圧縮バネ		[q]	圧力計	※4. フランジ形に使用	
	[i]	ロックナット	[2]		PJ ボディ※3		

○リリーフタイプ

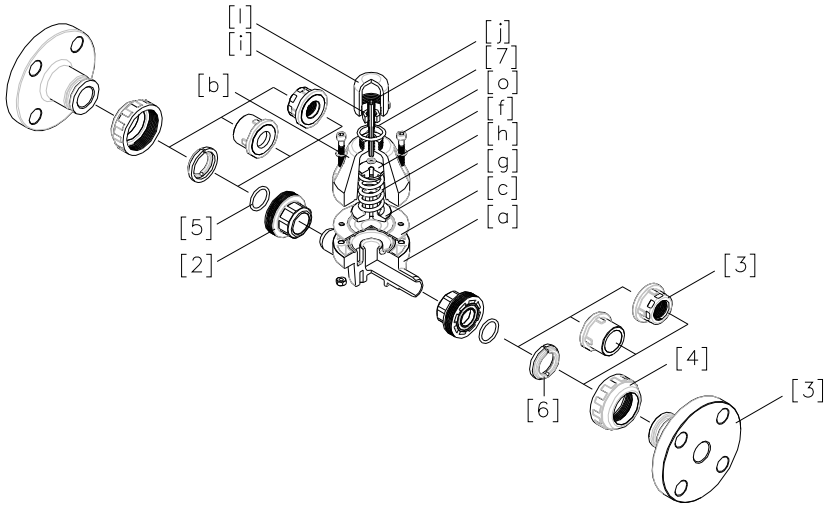
V185 (15mm～50mm)



No.		名　　称	No.		名　　称	No.	名　　称
[1]	[a]	ボディ	[1]	[i]	ロックナット	[4]	キャップナット
	[b]	ハウジング		[j]	調整ネジ	[5]	O リング(C)
	[c]	ダイヤフラム		[l]	キャップ	[6]	ストップリング※2
	[f]	スプリングプレート		[o]	ボルト、ワッシャ、ナット	[7]	O リング(D)
	[g]	コンプレッサー	[2]		PJ ボディ※1	(注記)※1. 自力式自在型専用	
	[h]	圧縮バネ	[3]		ボディキャップ	※2. フランジ形に使用	

○背圧タイプ

V186 (15mm～50mm)



No.		名　　称	No.		名　　称	No.	名　　称
[1]	[a]	ボディ	[1]	[i]	ロックナット	[4]	キャップナット
	[b]	ハウジング		[j]	調整ネジ	[5]	O リング(C)
	[c]	ダイヤフラム		[l]	キャップ	[6]	ストップリング※2
	[f]	スプリングプレート		[o]	ボルト、ワッシャ、ナット	[7]	O リング(D)
	[g]	コンプレッサー	[2]		PJ ボディ※1	(注記)※1. 自力式自在型専用	
	[h]	圧縮バネ	[3]		ボディキャップ	※2. フランジ形に使用	

5. 製品の機能及び仕様

機能

○減圧タイプ(V182/V82)は、一次側に圧力変動が発生しても二次側の圧力を一定に維持する働きをします。補助動力を用いず流体圧力のみを利用して作動し、流体がピストンを押し上げる力に対して圧縮バネの力でピストンを押し下げることで平衡を保ちます。

○リリーフタイプ(V185)は、圧力の超過を防ぐ必要のある配管ラインや装置に用います。バルブは 3 方向に流体が流れるＴ字 配管となっており、左右一直線上(水平方向)の出入口に加え、側面(垂直方向)に吐出し口を設けています。水平方向の圧力が設定圧力を超えるとバルブが開き、流体が垂直方向にある吐出し口から排出されます。この圧力分散と閉止の動作が水平方向の圧力を一定保持し、かつピーク圧を抑えます。

○背圧タイプ(V186)は、一次側圧力を一定に維持します。一次側の圧力が設定圧力を超えるとバルブが開き、設定圧力以下になると閉じます。補助動力を用いず流体の圧力を利用して作動し、流体がダイヤフラムを押し上げる力に対して、圧縮バネの力でダイヤフラムを押し下げることで平衡を保ちます。

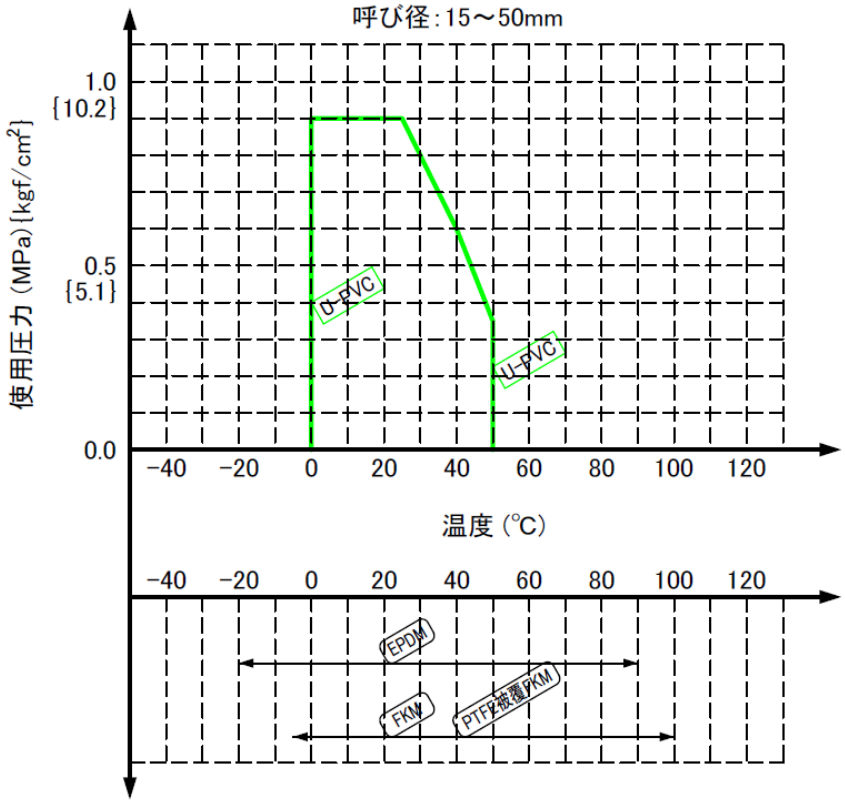
仕様

	減圧タイプ		リリーフタイプ	背圧タイプ
型式	V182	V82	V185	V186
呼び径	15～40mm	50mm	15～50mm	15～50mm
接続規格-方式	JIS10K フランジ、JIS ソケット、Rc ねじ			
最高許容圧力(20℃時)※1	1.0MPa			
使用温度範囲	0～50℃			
圧力調整範囲	0.05～0.9MPa			
ボディ材質	PVC			
ゴム材質	EPDM、FKM	EPDM、PTFE 被覆 FKM※2		

※1. 温度別許容圧力は、P.6 の『6. 使用圧力と温度の関係』の項を参照ください。
※2. PTFE 被覆 FKM の場合、O リング材質は、FKM を用います。

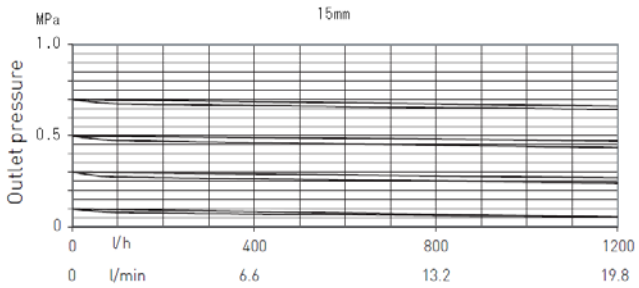
6．使用圧力と温度の関係

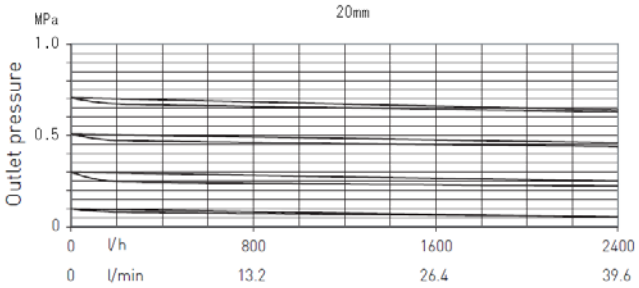
○減圧タイプ、リリーフタイプ、背圧タイプ

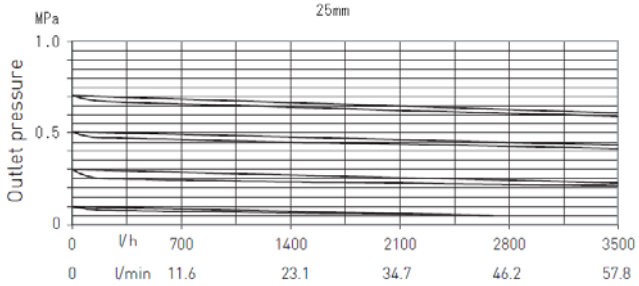


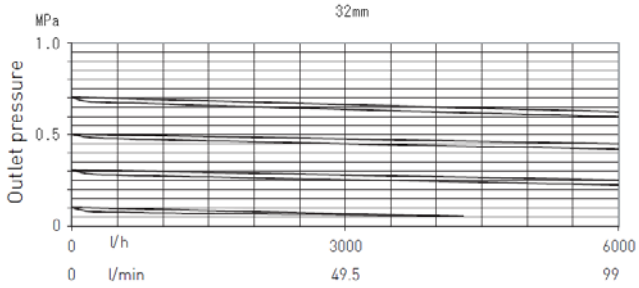
7．作動特性

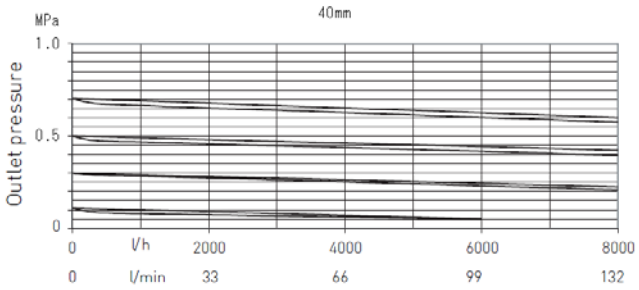
○減圧タイプ(V182)



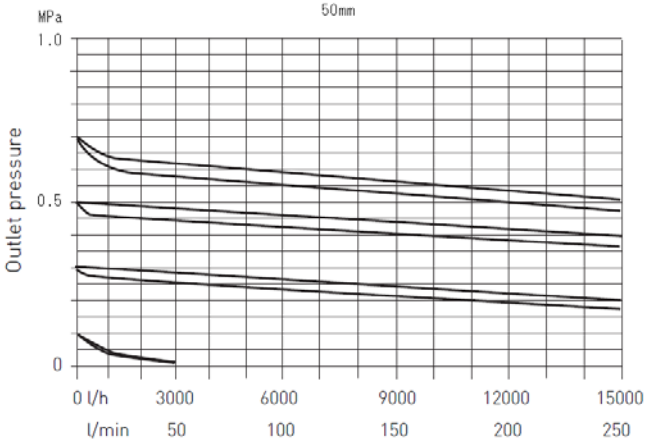




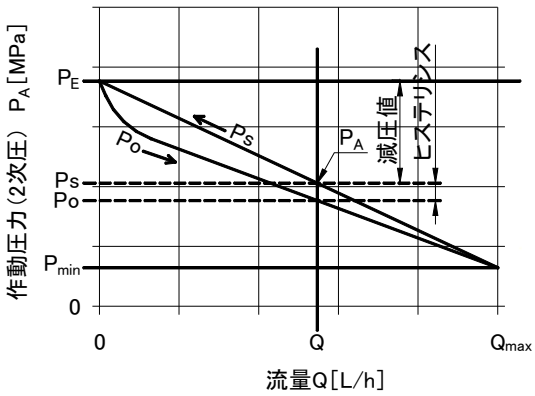




○減圧タイプ(V82)



【減圧タイプの作動特性】



◇流量の増加と共に、バルブを通過する際の圧力損失が増えて、2次側の圧が低下して行きます。

P_E ： 流体が流れていない時の設定圧力

P_E−Pmin ： 最大減圧値

・ 流量を流していない状態でP_Eに設定した場合、Qの流量を流した時に2次圧はP_Oまで低下します。

P_O線 ： 流量を0からMAXまで上げて行った時の圧力変化を示します。

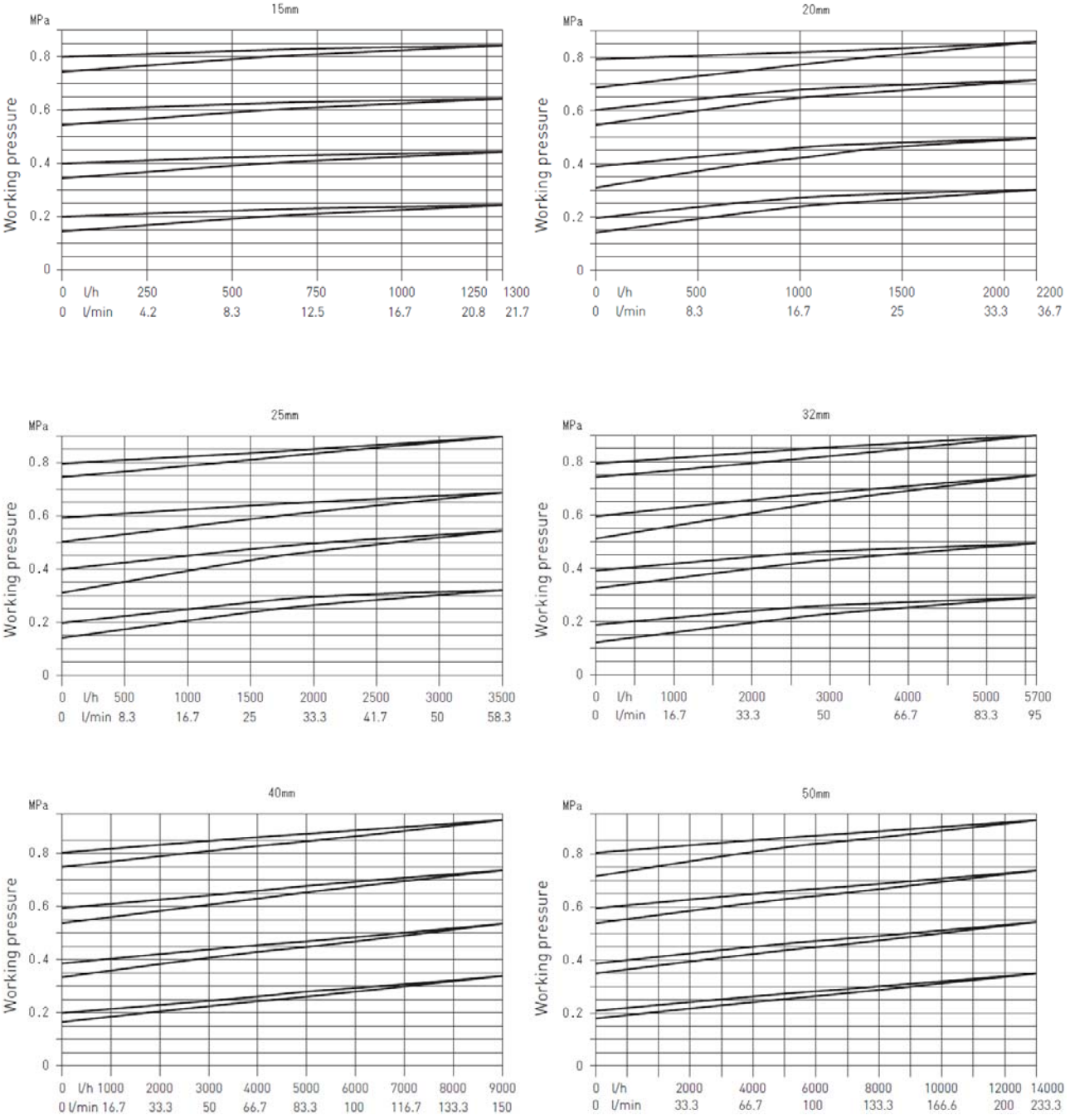
P_S線 ： 流量をMAXから0まで下げて行った時の圧力変化を示します。

ヒステリシス ： バルブ内のバネ、ピストン、隔膜の影響により、流量が増減する際に圧力差が生じます。

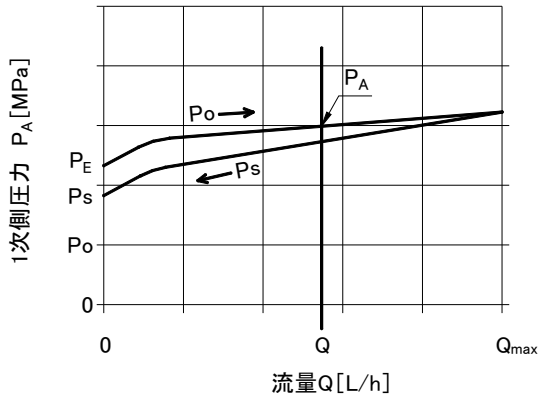
・ 流量が変動するとP_OとP_S線の間で圧力が変動します。

・ P_S線上にあるP_Aが実際の作動圧力となります。

○リリーフタイプ／背圧タイプ



【リリーフタイプ／背圧タイプの作動特性】



◇流量の増加と共に、バルブを通過する際の圧力損失が増えて、1次側の圧が上昇して行きます。

P_E ： 流体が流れていない時の設定圧力
P_A ： 作動圧力（流れている時の圧力）
P_S ： 流れを0にした時の圧力
・ 流量を流していない状態でP_Eに設定した場合、Qの流量を流した時に1次圧はP_Aまで上昇します。
P_O線 ： 流量を0からMAXまで上げて行った時の圧力変化を示します。
P_S線 ： 流量をMAXから0まで下げて行った時の圧力変化を示します。
・ 流量が変動すると、P_OとP_S線の間で圧力が変動します。
・ P_O線上にあるP_Aが、実際の作動圧力となります。

8. 取付方法

警告

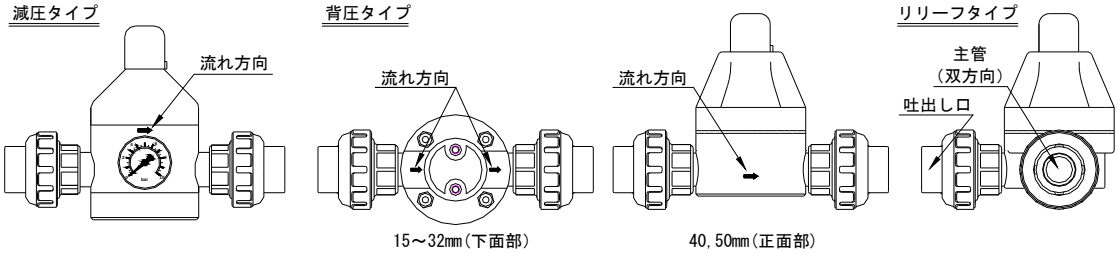
・バルブの吊り下げ・玉掛けは、安全に十分注意して吊り荷の下に立たないでください。

・使用する機械工具及び電動工具は、始業前に必ず安全点検を行なってください。
・配管施工する際は、作業内容に応じた適切な保護具を着用してください。
（ケガをする恐れがあります）

注意

・U バンドなどで配管サポートを取られる際は、締め過ぎにご注意ください。(破損します)
・キャップナットを締めすぎないでください。(破損する恐れがあります)
・キャップナットを締める際はパイプレンチを使用しないでください。(破損する恐れがあります)

・流れ方向に注意して配管してください。(表示ラベルの矢印に流れ方向を合わせてください)



・流体内に異物がある場合は本バルブの手前にストレーナを設けてください。
（作動不良の原因になります）
・取付けの際は配管及びバルブ等に引張り、圧縮、曲げ、衝撃等の無理な応力が加わらないように設置してください。
・通水試験前は、必ずキャップナットが十分に締まっているか確認ください。
・軸芯ズレ・面間寸法に注意してキャップナットを締め付けてください。
・金属配管へ樹脂バルブを接続する際は、樹脂バルブに配管応力が加わらないようにご注意ください。

フランジ形

注意
・接続フランジは全面座のものを使用してください。
・相互フランジ規格に違いがないように確認してください。
・必ずシール用ガスケット(AV パッキン)、ボルト・ナット、ワッシャを使用し所定の締付けトルク値で締め付けてください。(AV パッキン以外の場合は締付トルク値が変わります)

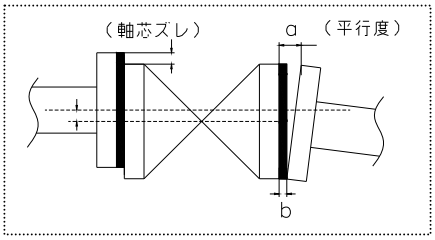
準備するもの
● トルクレンチ　● AV パッキン

手順

1) フランジ間にパッキンをセットします。
2) 連結フランジ側からワッシャとボルトを入れ、バルブ側からワッシャとナットを入れて、手による仮締めを行ないます。

注意
・フランジ面の平行度並びに軸芯ズレの寸法は下記の数値以下にしてください。
(配管に応力が加わり破損する恐れがあります)

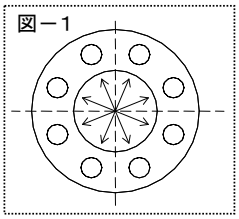
呼び径 (mm)	軸芯ズレ	平行度 (a−b)
15～32	1.0mm	0.5mm
40, 50	1.0mm	0.8mm



3) 徐々に規定トルク値まで対角線上(図−1参照)にトルクレンチで締付けます。

注意
・接続フランジのボルト・ナットは対角線上に規定トルクで締付けてください。(漏れや破損する恐れがあります)

図−1



規定トルク値　　単位：N・m{kgf・cm}

呼び径(mm)	15	20	25	32	40	50
PTFE・PVDF(被覆)	17.5 (179)	17.5 (179)	20.0 (204)	20.0 (204)	20.0 (204)	22.5 (250)
ラバー	8.0 (82)	8.0 (82)	20.0 (204)	20.0 (204)	20.0 (204)	22.5 (250)

※キャップナットをボディより外した場合(緩めた場合も)は、以下の方法で装着して下さい。
4) O リング(C)[5]が装着されている事を確認します。
5) ボディ側にボディキャップ[3]及びキャップナット[4]を O リング(C)[5]が外れないように接触させます。
6) キャップナット[4]を手できつくなるまで締付けます。
7) キャップナット[4]を傷つけない様にベルトレンチで 1/4～1/2 回転ねじ込みます。

ねじ込み形

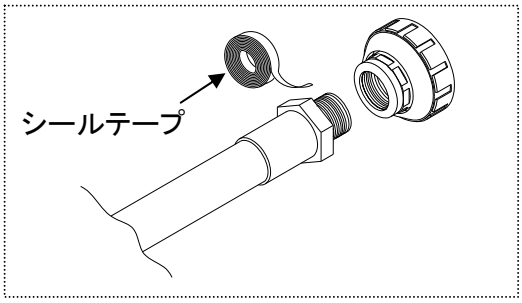
注意
・接合部のねじは締めすぎないでください。(破損する恐れがあります)

・必ずボディキャップを取り外してから施工してください。(この製品のキャップナットは、配管施工時に緩めやすいように軽く締付けています。)
・接合部のねじが樹脂製であることを確かめてください。
(金属ねじとの配管ではボディキャップが破損する恐れがあります)
・当社樹脂配管材料のねじ接合部には、シールテープをご使用ください。液状シール剤及び液状ガスケットを使用した場合、ストレスクラック(環境応力割れ)を起こす可能性があります。

準備するもの
● シールテープ　● ベルトレンチ　● スパナ

手順

1) 継手のおねじにシールテープを先端約 3mm 残して巻きつけます。
2) ベルトレンチでキャップナット[4]を緩めます。
3) キャップナット[4]ボディキャップ[3]を外します。
4) 継手のおねじとボディキャップ[3]を手できつくなるまで締付けます。
5) 傷つけないようにボディキャップ[3]をスパナで 1/2 ～1 回転ねじ込みます。



6) O リング(C)[5]が装着されているのを確認します。
7) ボディ側にボディキャップ[3]及びキャップナット[4]を O リング(C)[5]が外れないように接触させます。
8) キャップナット[4]を手できつくなるまで締付けます。
9) キャップナット[4]を傷つけないようにベルトレンチで 1/4 ～1/2 回転ねじ込みます。

ソケット形

警告
・接着剤使用時は換気を十分に行ない、周囲での火気の使用を禁止すると共に直接臭気を吸わないでください。
・接着剤が皮膚に付着した時は、速やかに落としてください。また気分が悪くなったり異常を感じた時は、速やかに医師の診断を受け、適切な処置をしてください。

注意
・低温下での施工は、溶剤蒸気が蒸発しにくく残存しやすくなるため、注意が必要です。(ソルベントクラックが発生し破損する恐れがあります)配管後は、管の両端を開放するとともに、送風機(低圧仕様のもの)などで通風することにより、溶剤蒸気を除去してください。
・必ずボディキャップを取り外してから施工してください。(この製品のキャップナットは、配管施工時に緩めやすいように軽く締付けています。)
・接着剤は AV 接着剤を使用してください。(材質に応じたアサヒ AV 接着剤をご選定ください)
・通水試験は接着完了後 24 時間以上経過してから行なってください。

準備するもの
● アサヒ AV 接着剤　● ベルトレンチ

手順

1) ベルトレンチでキャップナット[4]を緩めます。
2) キャップナット[4]とボディキャップ[3]を外します。
3) キャップナット[4]をパイプ側へ通します。
4) ボディキャップ[3]の受口部をウエスできれいに拭き取ります。
5) ボディキャップ[3]受口部及びパイプ差口に接着剤を均一に塗布します。

注意
・接着剤の塗り過ぎにご注意ください。(バルブ内に接着剤が流れ込むと作動不良または内部漏れの原因となる恐れがあります。また、ソルベントクラックが発生し破損する恐れがあります。)

接着剤使用量(目安)

呼び径(mm)	15	20	25	32	40	50
使用量(g)	1.0	1.3	2.0	2.4	3.5	4.8

6) 接着剤塗布後すばやくパイプをボディキャップ[3]へ差し込みそのまま 60 秒以上保持します。

注意
・管が破損する恐れがあるため、叩き込みによる挿入は絶対にしないでください。

7) はみ出した接着剤を拭きとります。
8) O リング(C)[5]が正しく装着されているのを確認します。
9) ボディ側にボディキャップ[3] 及びキャップナット[4]を O リング(C)[5]が外れない様接触させます。
10) キャップナット[4]を手できつくなるまで締付けます。
11) キャップナット[4]を傷つけないようにベルトレンチで 1/4 ～1/2 回転ねじ込みます。

9.作動圧力の調整方法

注意
・ロックナットは確実に締付けてください。
（ロックナットの締付けトルクが弱いと調整ネジが緩む恐れがあります。）
・調整ネジは、反時計方向に回し続けますとネジが外れてしまいます。外れない範囲で操作してください。

準備するもの
● スパナ　　● 六角レンチ

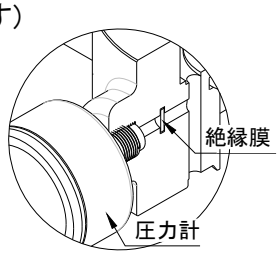
手順

1) ハウジング[b]の上部に取り付けられているキャップ[l]を反時計方向に回して取り外します。
2) ロックナット[i]をスパナで用いて緩めます。
3) 調整ネジ[j]を六角レンチで回転させ、圧力を調整します。なお、V182 と V82 には圧力ゲージが付いておりますので、ゲージで確認しながら調整することができます。
   時計方向　・・・ 作動圧力が上昇します。
   反時計方向 ・・・ 作動圧力が下降します。
4) 作動圧力の調整が終わりましたら、調整ネジ[j]を六角レンチで固定し、ロックナット[i]をスパナを用いて締付けます。
5) キャップ[l]を元の位置に取り付けます。
   キャップ[l]が O リング(D)[7]に触れてから 1/4 回転締め込みます。

10. 分解・組立方法

警告
・製品の取替えや部品交換の際には、配管内の流体を完全に抜いてください。又、流体が抜けない場合は、流体の圧力をゼロにしてください。
・配管施工する際は、作業内容に応じた適切な保護具を着用してください。
（怪我をする恐れがあります。）
・バルブ内のバネの圧縮を完全に緩めるために調整ネジを十分に緩めておいてください。
（バネを圧縮した状態で分解を行うとケガをする恐れがあります）

注意
・減圧タイプの圧力計は取り外さないでください。
絶縁膜と圧力計の間に封止しております圧力伝播用の液体が外部に漏れ出て、圧力計が使用不可となります。



準備するもの
● 保護眼鏡　● 保護手袋　● スパナ　● 六角レンチ

減圧タイプ(V182)

分解手順

1) ハウジング[b]上部のキャップ[l]を取り外します。
2) ロックナット[i]をスパナで緩め、調整ネジ[j]を六角レンチで十分に緩めておきます。
3) ボルト[o]を緩め、ボディ(上)[a2]と(下)[a1]を取り外します。
4) 圧縮バネ[h]及びスプリングプレート[f]を取り外します。
5) ピストンベース[e]を反時計方向に回転させて取り外します。
6) ボディ(上)[a2]の下部よりピストン[d]を押し上げてピストン[d]を取り外します。

組立手順

分解手順の逆の順序で組立を行います。(組立前にOリング類にグリスを塗ってください)

減圧タイプ(V82)

分解手順

1) ハウジング[b]上部のキャップ[l]を取り外します。
2) ロックナット[i]をスパナで緩め、調整ネジ[j]は六角レンチで十分に緩めておきます。
3) ボルト[o]を六角レンチで緩め、ボディ(上)[a2]と(下)[a1]を取り外します。
4) 圧縮バネ[h]及びスプリングプレート[f]を取り外します。
5) ボルト[k]を六角レンチで緩め、コンプレッサー[g]、ダイヤフラム[c]を取り外します。
6) ボディ(上)[a2]の下部よりピストン[d]を引き抜き取り外します。

組立手順

分解手順の逆の順序で組立を行います。(組立前にOリング類にグリスを塗ってください)

・ボディ、ハウジングの締付トルク値　　単位；N・m{kgf・cm}

呼び径	15mm	20，25mm	32，40mm	50mm
トルク値	9｛92｝	12｛122｝	15｛153｝	29｛296｝

リリーフタイプ(V185)、背圧タイプ(V186)

分解手順

1) ハウジング[b]上部のキャップ[l]を取り外します。
2) ロックナット[i]をスパナで緩め、調整ネジ[j]は六角レンチで十分に緩めておきます。
3) ボルトの保護キャップ(15mm～32mm)を取り外して、ボルト[o]を六角レンチで緩め取り外します。
4) ボルトを取り外すと分解されますので、圧縮バネ[h]とスプリングプレート[f]及びコンプレッサー[g]を取り外します。
5) 次に、ダイヤフラム[c]をボディ[a]から取り外します。

組立手順

分解手順の逆の順序で組立を行います。(組立前にＯリング類にグリスを塗ってください)

・ボディ、ハウジングの締付トルク値　　単位；N･m{kgf･cm}

呼び径	15，20mm	25，32mm	40，50mm
トルク値	9｛92｝	12｛122｝	20｛204｝

11．点検項目

注意　・定期的なメンテナンスを行なってください。(長期保管・休転時または使用中の温度変化や経時変化により漏れが発生する場合があります。)

○下記の項目にて点検を行なってください。

(1)	外観にキズ・ワレ・変形はないか
(2)	外部への漏れはないか
(3)	締結ボルト・ナット及びロックナットの緩みはないか
(4)	キャップナットは緩んでないか
(5)	調整ネジの操作はスムーズに行なえるか

12. 不具合の原因と処置方法

状態	原因	処置方法
ボディとハウジング部から漏れる	締結ボルトの緩み	ボルトの増し締め
	ダイヤフラム、O リング(A,B)のキズ付き、磨耗又はへたり	部品の交換
キャップナット部から漏れる	キャップナットの緩み	キャップナットの増し締め
	O リング(C)のキズ付き又はへたり	部品の交換
調整ネジ部から漏れる	ダイヤフラムの破れ	部品の交換
	O リング(B)のキズ付き、磨耗又はへたり	部品の交換
圧力が設定値以下になる	ピストンベース、リングシールのキズ付き又は磨耗による作動不良	部品の交換
	弁座やダイヤフラムのキズ付きによる作動不良	部品又は製品の交換

安定して性能を発揮させるためには、消耗した部品を交換する必要がございます。
消耗部品のリストを以下に記載しますので、ご必要の際にはご用命ください。

品種		セット名	部品名
減圧タイプ	V182	調整キット	・調整ネジ[j]　・スプリングプレート[f] ・圧縮バネ[h] ・スプリングサポートプレート[p] ・ピストン[d]＋ピストンベース[e]
	V82		・調整ネジ[j]　・スプリングプレート[f] ・圧縮バネ[h] ・ピストン[d]＋O リング(B)[n2]
	V182	シーリングキット	・O リング(A)[n1]　・O リング(B)[n2] ・リングシール[m]
	V82		・ダイヤフラム[c]　・O リング(A)[n1] ・リングシール[m]
リリーフタイプ／背圧タイプ※1		スペアパーツ	・調整ネジ[j]　・ダイヤフラム[c] ・圧縮バネ[h]
共通※2		O リング	・O リング(C)[5]
		ボディキャップ／ナット	・ボディキャップ[3]　・キャップナット[4] ・ストップリング[6](フランジ形の時のみ)

※1. リリーフタイプと背圧タイプは同じ部品を使用します。
※2. 減圧タイプ、リリーフタイプ、背圧タイプ共通の部品になります。

13. 残材・廃材の処理方法

・廃棄される場合は、各自治体の指針に従い、廃棄専門業者に処理をお願いしてください。
（燃やすと有毒ガスが発生します）

自力式弁

減圧タイプ・リリーフタイプ・背圧タイプ

（15mm～50mm）

旭有機材ホームページ　http://www.asahi-yukizai.co.jp/

本書の内容につきましては、製品改良の為、予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。　2014.2